

青梅市文化財ニュース

第465号

令和8年7月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館(青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859)

わがまち青梅講座-歩いて分かった今井地区の文化財-

6月6日(土)、青梅市教育委員会 生涯学習部 文化課主催のわがまち青梅講座『今井地区の文化財巡り』を実施し、20名弱の参加者がありました。コースは、今井市民センター(第三小学校分校跡門柱含む)⇒原今井観音堂跡⇒茶の神様碑⇒三柱神社⇒今井城跡⇒薬王寺⇒浮島神社⇒竹の下遺跡⇒正福寺(今井氏墓、大黒堂含む)です。

その中の一部を取り上げ、今井地区の文化財を紹介させていただきます。今井の名前の由来はよくわかっていません。1993(平成5)年の調査で発見された浮島神社の懸仏(鏡板に仏像や神像を付けた神仏習合の祭祀具)に彫られた年代や今井城跡の調査、正福寺のある今井氏の墓石からも、1400年代のころには『今井』の名が残っており、市内でも歴史のある地区の一つです。

【原今井観音堂】

現在の原今井自治会館は、1947(昭和22)年まで観音堂でした。『皇国地誌・今井村誌』には、「薬王寺ニ属ス」と記載されています。広さは東西約15m、南北約30mであり、周辺は現在、住宅地です。

裏の墓地への入口のそばには小さな祠があり、石造りの地蔵様が祀られています。地蔵の土台は高さ23cm、幅75cm、奥行70cmの大きさで、その上に約87cmの地蔵が建てられています。像の正面には、『念佛供養』と彫られ、側面には「施主村中 再逢 世話人今井」「文政十丁亥天 開眼 薬王寺」とも彫られています。(文政十年1827年)

会館正面の軒下には、銅鐘が吊るされています。高さ約75cm、底面は約40cmの大きさです。表面には、「諸行無常 是生滅法 生滅々已 寂滅為楽」「奉掛薬師如来御宝前 武芻入間郡今井村 医王山 薬王寺住秀栄代」と彫られ、寄進者20名ほどの名前も彫られています。また、「元文二丁巳年四月吉日 江戸住 西村和泉守作」と彫られています。(元文二年1737年)銘文から、薬王寺持であると考えられています。

【茶の神様碑】

市内の製茶業は、原今井の指田園から始まったとされます。指田氏の御先祖の半右衛門が文化年間(1804～1818)に京都宇治で製茶法を会得し、広めたとされています。この地域の製茶は次第に盛んになり、江戸時代には生糸と共に海外にも輸出されたとされます。

原今井のバス停の北側には、「狭山製茶先哲記念標」と書かれた、高さ約165cmの記

念碑が建てられています。記念碑は幅 185×奥行 130×高さ 30cm と、65×63×30cm の二段の土台の上に立つ、直径約 25cm で、1880（明治 13）年 3 月に製茶業に関わっていた百名以上の寄進によって建てられたものです。記念碑が東の方角を向いて設置されているのは、狭山茶を生んだ狭山地方（埼玉県）と関係があると想像されます。

【浮島神社】

青梅市立今井小学校や霞川の北側にある浮島神社は、浮島天満宮あるいは天神社と称されています。創建年代は不明ですが、1594（文禄 3）年に平山小次郎らによって再建されたとされます。社地は霞川に接しており、川が増水した時には水面に浮かんでいるように見えることから、「浮島神社」と名付けられたそうです。天神社とは、天満宮・〇〇天神と呼ばれる菅原道真公を御祭神とする神社が俗称「天神様」であり、主に受験生から信仰されています。市内にも「菅原道真公」を御祭神とする天神社が各地域にあります。今井地区は昔から俳句をたしなむことが盛んに行われており、例大祭には多くの俳句が奉納されたとされます。

神社には、修築をした時代を示す五枚の棟札が保存されています。最古の棟札は、1594（文禄 3）年とされ、1613（慶長 18）年、1640（寛永 17）年、1685（貞享 2）年、1710（宝永 7）年の棟札が残されています。明治維新後には、1915（大正 4）年、1967（昭和 42）年に大改築が行われています。現在の社殿は、1996（平成 8）年に改築されました。学問の神様を祀るだけでなく、本殿の後方には、疱瘡神・蚕陰神社・琴平神社・綾瀬神社・八幡宮が祀られています。

・ほうそうがみ疱瘡神…疱瘡（天然痘）という伝染病をもたらす、またはそれを司ると信じられた神で、恐れられつつも、祀ってなだめることで病気の流行や症状を軽くしてもらおうとした存在とされています。

・こかげ蚕陰（影）神社…養蚕や生業を陰で支える神への信仰を指すとされています。

・琴平神社…香川県琴平町の金刀比羅宮（通称こんぴらさん）を本宮とし、海上安全や五穀豊穡などを祈る意味で名づけられた社号。

・綾瀬神社…社名自体に共通の宗教的な意味合いはなく、多くの場合「綾瀬」（川や地形に由来）に一般的な社号「神社」を組み合わせ、その土地の氏神・鎮守を表したもの。

・八幡宮…安産祈願や子育てにご利益があるとされています。

市内を実際に歩き、そして文献等で調べることで建造物や文化財のことがよくわかることがあります。今回は一部しか掲載できませんが、自分の目を見て、調べることで市内の文化財を再発見することができます。

（文責 塚田 直樹）

<参考文献>

青梅市教育委員会（2024）『おうめ文化財さんぽ 2024 改訂版』

儘田小夜子（2010）「金剛寺の銅鐘」青梅市広報 ふるさとの文化財 107